

われたぎゅうにゅうびん 【低学年 2 - 2】

- 自己の体験を話合いに生かす工夫 -

- (1) 主題名 相手を思いやって〔2 - 2〕
- (2) ねらい 誰に対しても思いやりの心で接し，親切にしようとする心情を育てる。
- (3) 資料名 「われたぎゅうにゅうびん」
- (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主 な 発 問 と 児 童 の 心 の 動 き	留 意 点
導 入	1 親切にしてもらった経験を発表する。	友だちに親切にしてもらった時のことを教えてください。 ・消しゴムをかしてくれたよ。 ・転んだ時に，声をかけてくれた。	親切にされたときの心地よさやうれしさなどを発表させる。
展 開	2 資料の前半を聞いて話し合う。	けい子さんは，なぜまよっているのでしょうか。 ・そうじに行かないといけませんが，さち子をほってはおけない。 ・いっしょに片付けるとがんばりシールがもらえなくなる。 ・そうじ時間になったらそうじをしなければならぬが，困っている人を助けたい。	けい子さんのおかれた状況をつかませる。
	3 けい子はどうしたらよいのかについて考える。	けい子さんはどうしたらよいのでしょうかね。 ・いっしょに片付ける。 ・そうじに行く。 (いっしょに片付けたときの気持ち) ・気持ちいい，よかった。 ・さち子の役に立ててうれしい。 (さち子を放っておいてそうじに行ったときの気持ち) ・さっちゃんはどうしたかな，心配だ。 ・いっしょに片付ければよかった。	けい子とさち子になり，役割演技をする中で，どうしたらよいのかを考えさせる。その行動をとったとき，どのような気持ちになるのかを考えながら意見を出させる。
	4 資料の後半を聞いて話し合う。	自分の考えと比べながら聞きましよう。 ・やっぱりさち子に親切にしたんだ。 ・そうじはどうするのかなあ。 ・みんなにはどう言ったのかなあ。	片付けた後，どうすればよいのかを考えさせる。
	5 自分の生活を振り返る。	困っている人のことを考えて行動したことがありますか。 ・給食をこぼしたのでいっしょに片付けてあげた。 ・かさに入れてあげた。	相手の気持ちを教師が代弁することにより，これからも進んで親切にしようという気持ちを高めたい。
終 末	6 教師の説話を聞く。	・相手の気持ちを考えた行動をした。	困っている時に親切にされてうれしかった経験を話す。

われたぎゅうにゅうびん

「そうじ時間に間に合うかしら。いそがなくっちゃあ。」

けい子さんはやっと給食を食べ終えました。今日の給食は、苦手な魚が出たので、けい子さんは食べるのがおそくなってしまったのです。もう、給食当番は、食器かごを給食室へ持って行ってしまいました。

「けい子さん、もうすぐそうじのチャイムになるわよ。わたしは、先にげんかんへ行って待っているからね。」

と、同じはんのみきさんが言いました。

「わかったわ。先に行っててね。みんな、ちゃんとそうじ時間に間に合うといいね。今日もがんばりシールをもらおうね。あと一つでゴールだからね。」

と言いながら、けい子さんは、教室からいそいで出て行きました。

「あら、どうしたの、さっちゃん。」

給食室からげんかんにむかう途中、けい子さんは一年生のさち子さんが泣いているのを見つけました。まわりにはだれもいません。ぎゅうにゅうびんが、数本われています。

「おねえちゃん、ぎゅうにゅうびんが落ちてわれたの。」

そう言うと、さち子さんは、ますます大きな声でなきました。さち子さんは、けい子さんの家のとなりに住んでいて、小さい時からいつもいっしょにあそび、けい子さんのことを「おねえちゃん」とよんでいます。

キンコーンカーンコーン。そうじのはじまりのチャイムがなりはじめました。けい子さんは、どきどきしてきました。今からすぐに行けば、まだ間に合います。けい子さんは、どうしようかとまよってしまいました。

けい子さんは、しばらく考えていましたが、さち子さんをこのままおいて行くことはできません。同じはんのみんなには、わけを話してわかってもらおうと思いました。

「いっしょにかたづけようね。」

と、けい子さんは言いました。さち子さんは、にっこりしました。

活用に生かすための実践報告

「われたぎゅうにゅうびん」

1 主題の設定

・友だちに親切にし、互いに助け合っているという思いをもっている児童は多い。しかし、日々の暮らしの中では、なかなか行動に移せないことがある。学校生活の中で起こり得る場面を設定し、思いやりや親切について考えることを通してよりよい人間関係を築こうとする意欲や態度を育みたいと考えた。

2 指導過程の工夫

・資料は全文を提示しないで、主人公のけい子さんが迷っている場面で切るとよい。主人公はなぜ迷っているのかを明確にすることが大切である。「掃除場所に行かなければならない」と思いつつも、仲よしの友だちを放っておけない」という主人公の葛藤に共感させながら、どうしたらよいのかを考えさせたい。

・中心発問の所で、即興的な役割演技を取り入れることによって二人の気持ちの揺れや葛藤などを感じ取らせ、相手の立場に立って考える経験をさせていきたい。

・ねらいのもとに、本展開においては主人公のとった行動について言及しているが、ジレンマ的手法を取り入れた指導の場合は、前半で資料を終えるとよい。

3 発問の工夫

・主人公がなぜ迷ったのかを明確にしていくなかで発問が大切である。

・中心発問により役割演技に入っていくが、ねらいは「親切にしようとする心情を育てる」ことにあるので、役割演技の途中で、指導者の方から登場人物の心情を問

う発問をしっかりと行っていく。

・「掃除についてはどうしたらよいのか」という思いが残る児童も多くいるだろう。資料後半を提示した後に考えさせるとよい。クラスの子どもたちとの人間関係を築いていく上にも大切にしたい視点である。

4 児童の反応

・小さい子が一人で割れた牛乳びんを片付けるのは危ないよ。自分ではできなくて泣いているのだから、手伝うのは当たり前だ。

・けがをしたら大変だ。クラスの友だちは事情を説明したら分かってくれる。

・友だちが困っているのを見てしらんぷりをするのは、友だちではない。

・がんばりシールは明日でももらえるけど今困っている人を放っておけない。

・きまりは守らないといけないけど、大事な事情があったら仕方がないと思う。でもなぜ、掃除に行けなかったのかをちゃんと説明しないといけないと思う。

・友だちの役に立てて、主人公はとてもうれしいと思う。

・もしそのまま掃除に行ったら、とてもいやな気持ちが残ると思う。

5 実践者からの一言

・資料の後半を提示すると、多くの子が「そうだよね」「やっぱり」といった反応を示していた。「親切にしてよかった」という気持ちが残るような終末にしたい。

・「掃除をまじめにする」という学校のきまりは守らなくてもよいという考えにならないように気をつけたい。きまりやルール大切さはきちんと教えたい。

(三原小学校 石井純子)